





【号一郎】

御子から

かしく、

おrikか

被見候

いよく

御殿

事候

無消息

馳走候へく候

十月二日

(折り返)

与一 郎殿

## 唯一確実な信長の自筆文書

73

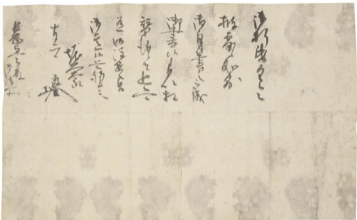
織田信長自筆添状

一通

【号一郎】  
御子から  
かしく、  
おrikか  
被見候  
いよく  
御殿  
事候  
無消息  
馳走候へく候  
十月二日  
(折り返)  
与一 郎殿

天正五年(一五七七)八月、松永久秀が信貴山城(奈良県生駒郡平群町)でふたたび反旗を翻すと、信長は織田信忠を総大将とする追討軍を大向へ派遣。同年十一月、秀吉を統括した本文書はその追討軍に加し、松永方の片岡城(奈良県北葛城郡上牧町)攻めで活躍した藤孝の子早忠興へ信長が与えた添状である。

念心といっても、この往目すべきは、産快(華勢流)書きぶり、幕政の添状(号二)に「御自筆之被見御書候」とあるように、これは間違いなく信長の自筆である。信長自筆とされる文書には、東京大学史料編纂所蔵の栗木村東父子宛書状や大森辰所蔵の信忠宛書状などもあるけれど、これらはいずれも筆跡の比較から推定されたもの。その意味でも、自筆の「幕事件」というべき本文書の価値は極めて高く、關川文書の中で最も白眉といえるべき一通である。(山田)



御折捨具令

被露候処、則

御自筆之被成

御書候、尚且相

替候候者、退々可

有御注意候旨、

御意候、恐々謹言、

堀久太郎

十月二日 秀政(花押)

長岡守 御殿

御陣所

## 信長自筆を証明する添状

74

堀秀政添状

一通

【号二】の発給にあたり、信長の機嫌を憂めていた堀秀政が同日付で忠興へ送った添状「御自筆之被成御書候」という一文を含んでおり、「御自筆」が信長自筆であることを明確に示している貴重な文書である。

ちなみに、片岡城攻めに際して、信長は藤孝に「対しても同様の添状を発給している。天正五年(一五七七)に記される十月三日藤孝宛御印状(号36)である。ただし、こちらは明らかに右半部横長語の筆跡。すなわち、同じ戦いに参陣した藤孝と堀秀政父子に対し、信長は自筆と手書を使い分けて添状を発給しているわけだ。それだけ、信長が忠興の働きぶりに感入っていたということなのである。(山田)



八坂城の南側八代市赤の丸町に所在する八代市立第一中学校は、平成十六年(二〇〇四年)に三冠王を獲得し、口野球の松中信彦選手の母校でもあるが、校庭の一角には、中学校のグラウンドにはあり似合わない五輪塔が建てられていて、近づくにつれてみると、五輪塔の表面には「織田信長 去逝四十九歳 天正六年六月二日(夏)十年六月三日(日)御願 御教達 御印 承久」の五輪塔は、信長を供養するために田圃が買収したものなのである。現在、信長の墓、菩提寺の跡は全国二十箇所あまり確認されるが、そのほとんどは旧織田町の近辺に所在し、九州にあるのは、この五輪塔だけだ。

それではなぜ、信長とは無縁の八代にかゝる五輪塔が建てられているのであろう。その背景には、信長の七回忌にあわせて、藤井・田岡父子が建立した信濃山守願寺の遺徳が関係する。信長の法名、菩提院信備善願大居士(二)因み、その菩提寺を中土善願寺、願寺は丹波笠原に建立されたところだが、慶長五年(一六〇〇)に信備が豊前へ国替えされると、同寺もまた小倉下への菩提院(現北九州小倉北区)へ移設、細川忠利の時代、寛永九年(一六三二)に肥後へ国替えされると、ここへは忠興の菩提院留った八代市の下(八代市平野町)に移った。すなわち、件の



[写真2]

にあたる八代市赤の丸に移された五輪塔も、この時に移されたのであろう。その後の善願寺についてはよくわかっていないが、宝暦四年(一七五四年)同寺が防れた時の幕主、細川信賢は、寺の移設と関係にまつわる忠興の工口ノドを知つて、感し入り、菩提院の建立を命じている。

細川家の菩提寺と同様、明治維新を迎えて善願寺は廃寺となつた。いま、現地に残されている往時の痕跡は、信長の五輪塔くらいである。ただし、善願寺ゆかりの文化財はいま各地に伝えられている。八代市遠町の光善寺には、慶長十九年に忠興が善願寺へ寄進した梵鐘が移されており、また、善願寺の本堂内には、浄土寺八代市古閑町で、いまも存在する。

なお、かつて善願寺には、信長公三郎の木像が安置されていた。源くとも、細川頼朝の頃のことであろう(『徳川頼朝』巻七)。木像は明治時代初期までは破壊に存在しており、廃寺に際して細川家では、御五箇に収納することとして、(二)祠堂



[写真1]

所蔵、熊本大学  
附属図書館寄  
託(細川家で祀  
られていた信長  
の木像は、いま  
はここに安置さ  
れているのであ  
らうか。

## 【資料編】

- (特別寄稿) 金子 拓 長岡藤孝と織田信長(1)天正 年から三年にかけてのあたり
- 出品リスト
- 出品文書以外に知られる藤孝宛信長文書
- 織田信長 略年譜
- 信長の領国拡大と主要合戦図
- 主要参考文献

